

1. 環境教育事業の推進

担当局課[環境局環境学習課]

本市では、環境ミュージアムを拠点として、恵まれた自然や充実した環境学習施設等を結びつけて、まち全体で楽しく学べる仕組み「北九州環境みらい学習システム“ドコエコ”」の推進に取り組んでいます。

本市の環境学習・活動・交流の総合拠点施設である環境ミュージアムでは、一般利用をはじめ、小中学校の社会見学や総合的学習など学校教育の場としても活用できるよう、ガイドの解説や環境学習サポーターによるエコ工作や環境実験など様々なプログラムを用意しています。また平成24年度には隣接地に、地球環境の大切さを学ぶ体験学習プログラム「地球の道」を開設しました。平成26年度からは、楽しく効果的な学びをナビゲートする「環境学習コンシェルジュ」を配置し、本市の環境資源を活用した学びの支援・情報発信を行っています。

さらには、多様な人々が、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域課題等に取組む「持続可能な開発のための教育」(ESD)活動の全市的な普及を目指します。

主な環境学習の取り組み

取 り 組 み	取 組 内 容
北九州環境みらい学習システム“ドコエコ”の推進 (平成21年度～)	本市の環境資源を学習素材として活用し、幅広い世代における環境体験学習を充実させ、ライフスタイルの変革などの行動を起こすことができる人材を育む。
北九州子どもエコクラブ推進事業 (平成8年度～)	次世代を担う子供たちに環境学習・保全活動を行える機会を提供することによって、活動の活性化及び環境意識のより一層の高揚を図る。
環境教育副読本の活用による環境学習の推進 (平成12年度～)	環境についての理解を深めるため、幼児から中学生までの発達に応じた環境教育副読本や環境教育ワークブック「みどりのノート」を作成し、市内全小学校に毎年配布。さらに、小学校高学年用環境教育副読本追加版を作成し、ホームページで発信。
環境学習サポーターの育成と活動支援育成 (平成14年度～)	市民全体の環境保全意識を高めるために環境ミュージアム内や学校、地域で活躍する環境学習サポーターの人材育成を行う。
北九州エコライフステージ事業 (平成14年度～)	本市の環境施策の基盤となる市民・NPO・企業等の「北九州市民」における「市民環境力」の強化を目指し、様々なテーマによる環境活動の実践・交流を重ねるとともに、情報交流の場・発信の場づくりを推進する。

持続可能な開発のための教育(ESD)活動支援事業 (平成18年度～)	持続可能な社会づくりを担う人材を育むため、国連など世界規模で進められているESDを市民・NPO、企業、学校、行政等と連携しながら推進する。
北九州市環境首都検定推進事業 (平成20年度～)	「北九州市環境首都検定」を実施することで、楽しみながら市民全体の“環境力”の向上を図る。北九州市の環境の歴史や施策をまとめた「北九州市環境首都検定公式テキスト」を発行。

今後も幅広い環境人材の育成強化を図るため、環境全般に関連した教育事業を展開していきます。



ていたん & ブラックていたんも受検した  
北九州市環境首都検定



子どもエコクラブ

福岡県立東筑高校の取り組み

東筑高校は平成25年度よりSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、地元北九州や日本を科学技術の面で支える人材の育成をめざして、さまざまな教育活動を行っています。

環境の維持や保全に関わる取り組みとして、化学部は水質浄化をテーマに研究活動を行うとともに「遠賀川水フォーラム」の活動に定期的に参加し、源流までのバスツアー、生態系調査、環境についての英会話実習やディスカッションを通して水環境保全に対する認識を深めています。生物部は昆虫に関する研究を通して生物多様性の重要性を学んでいます。その成果は自校の文化祭や北九州市の科学イベントにおいて小中学生を対象とした理科教室を開き、市民の皆様に還元しています。また、有志の生徒および職員、約200名による堀川周辺のボランティア清掃活動を年3回実施し、地域の環境保全について考え、主体的に関わる機会を設けています。

東筑高校は自然環境を守り、「持続可能な社会」の実現を担う次世代の市民を育成します。



ボランティア清掃(平成26年12月)

## ひびきのリレーションの取り組み

### ○「アナログとデジタルのハイブリッドによる楽しい学び」

子どもたちが地域の自然とのふれあいや自然に関する学習を通して生物多様性の多面的機能や自然との上手なつきあい方を知り、一人ひとりが“ふるさと”としての地域の環境のために考え、行動できる「生きる力」を育成することを目的とした体験型の学習の実施および支援を行っています。

学校カリキュラムの時間などの制約を緩和し、学習能率を向上させる手法として、ICT (Information and Communication Technology)を活用した生態系シミュレーション・ソフトウェアを考案し、地域の機関による協働チームにより企画・制作しました。面白くて学べるシリアスゲームの手法により地域の生き物や生き物同士の繋がりを楽しく学べることを目指しました。“シリアスゲーム”はエンターテインメントゲームとは一線を画し、「教育をはじめとする社会の諸領域の問題解決のために利用されるデジタルゲーム」と定義されており、参加やコミュニケーションの機会の増加を促し、人同士のつながりの複雑化・多様化を解消することで地域の社会問題を解決するイノベーションツールとして大きなビジネスにも成長しつつあります。

さらに教育の枠を超え、低炭素型地域社会の構築や環境・教育・健康・観光・防災など多様な価値提案による産業・雇用創出、地域経済の高揚や地域力の質の向上などあらゆる場面の効果に期待も膨らんでおり、ものづくりのまち・北九州らしく、生物多様性においても、ものづくりから貢献できればと思います。



## 2. 学校教育における自然環境に視点を当てた教育の推進

担当局課[教育委員会指導第一課]

本市の全ての小・中学校では、各教科、道徳の時間、特別活動及び、総合的な学習の時間等の中で、それぞれの特性に応じ、また、相互に関連させながら教育活動全体の中で環境教育を行っています。さらに、子どもの実態に応じ、地域の特性を生かしながら、各学校が独自の自然体験や社会体験を通じた環境教育の取り組みも行っていきます。

その中で、自然環境に視点を当てた環境教育として、地域にある川、干潟や海を学習材として児童生徒が生き物に触れることや、観察や水質検査を行うなどの学習に取り組んでいます。

今後も、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うために、総合的な学習の時間や学校行事等において、環境局等の関係機関との連携を図りながら、本市の素晴らしい様々な自然環境に視点を当てた環境教育を推進していきます。

### 小学校第4学年における環境体験科の取り組み

担当局課[教育委員会指導第一課]

環境に対する豊かな感受性を育み、よりよい環境の創造のために主体的に取り組む能力や態度を育成するために、平尾台や響灘ジオトープなどの素晴らしい自然に直接ふれたり、環境ミュージアム等の環境教育関連施設で、本市の環境への取り組みについて学んだりする体験学習を総合的な学習の時間の中で実施しています。

- 北九州市立小学校第4学年児童対象
- 実施期間(毎年5月上旬～11月上旬まで)
- 事前学習、体験学習、事後学習については、各学校の環境教育の内容との接続を考慮したり、児童の実態や学校の特色を生かしたりしています。
- 6施設(環境ミュージアム、平尾台、エコタウン、山田緑地、いのちのたび博物館、響灘ジオトープ)から、自然環境に視点を当てた体験学習と低炭素社会や循環型社会づくりに視点を当てた体験学習を組合せたコースを選択し、各施設の学習プログラムで体験学習を行っています。

#### <自然環境に視点をあてた活動例>

##### ・平尾台自然の郷

グループ(7～8名)に1名の自然観察指導員が入り、フィールド散策する。カルスト地形や豊かな動植物の営みを観察する。自然観察センターで、生態ジオラマや平尾台自然大図鑑等で学習する。

### 小学校第4学年における環境体験科の取り組み(つづき)

#### ・響灘ビオトープ

ネイチャーセンターにて、響灘ビオトープに生息する生き物や生態系についてパネルや講話で学んだ後、響灘ビオトープを散策する。水辺の鳥たちの声を聞きながら、生き物の観察を行う。五感を通して、目の前に広がる生命の循環を感じる活動を行う。



小学校第4学年における  
環境体験科の取り組み(山田緑地)



小学校第4学年における  
環境体験科の取り組み(響灘ビオトープ)

### 曾根東小学校での自然環境に視点を当てた環境教育の取り組み

北九州市立曾根東小学校(小倉南区)は、広い曾根新田と縦横に流れるクリーク、北部九州最大の曾根干潟などの豊かな自然に恵まれています。また、学校の周辺には、カブトガニ、ズグロカモメ、ニッポンバラタナゴなどの絶滅が危惧される生物も生息しています。こうした地域環境を生かし、総合的な学習を中核として、全教科領域にわたり環境教育を行っています。子どもに多面的、継続的な環境教育を図るため、環境教育の視点を明確にした学習を行っています。このことで、子どもたちは、豊かな感性を培い、自分らしい環境とのかかわり方をしているようです。

#### 【環境教育カリキュラムと「地域環境フォーラム」】

本校独自の環境教育カリキュラムに基づき、生活科や総合的な学習の時間を中核として、全学年で地域に出かけ、自然環境について学習しています。6年間の学びの集大成として、毎年6年生が地域の方々をお招きして「地域環境フォーラム」を開催しています。「地域の環境保護のために」をテーマに発表し、交流では地域の方々の自然への思いを伺ったり、自分たちの環境への取り組みを振り返ったりしています。子どもたちからは「地域の人と共に、恵まれた環境を守りたい。」等の発言がみられました。生涯にわたる環境意識の育成をめざしています。



### 曾根東小学校での自然環境に視点を当てた環境教育の取り組み(つづき)

#### 【「干潟クリーン作戦」による地域づくり】

平成5年、嘴に針のかかった野鳥を見た子どもたちから「干潟の野鳥や生物を守ろう」とごみ拾いを始めたことから『曾根干潟クリーン作戦』が始まりました。

今では、漁協・自治会・保育所等が参加する地域行事として定着しています。

この活動は、地域の美化活動を活発化するとともに、かつては減少したカブトガニが、産卵に訪れるようになるなどの成果が見られています。



#### 【独自の校内環境—「エコ・ミュージアム」】

子どもたちが、曾根干潟について関心を高めたり、自分の課題を調べたりできるように「エコ・ミュージアム」を作っており、児童や地域の方がいつでも参観できるようにしています。

地域の漁協や専門家等の方々の寄贈を得て、曾根干潟に生息する生物の標本やパネル、書籍、ビデオ、野鳥観察の道具等を展示しています。児童の発案による「ミニ干潟」にはトビハゼやカニなどが、また、各種の水槽にはクリークや川や海に生息する魚たちが泳いでいます。



#### 【野鳥観察】

曾根干潟は、世界的希少種のズグロカモメ等の越冬地で、年間を通じて二百種以上の野鳥が観察できます。また、貫川河口は6～8月の大潮の満潮時にカブトガニが産卵に訪れます。子どもたちは、野鳥観察やカブトガニの産卵調査を通して生態を学び、小さな命を育む曾根干潟の自然の豊かさを実感しています。



### 3. 洞海湾における環境修復体験事業

担当局課[港湾空港局開発課]

本事業では、ムラサキイガイを利用した水質浄化研究や堆肥化研究の技術を使って、地元小学生を対象に「ムラサキイガイを用いた洞海湾の環境修復体験教室」を実施しています。

この体験教室では、参加した小学生達が、マイロープの作成からマイ堆肥づくり、植物の栽培までを体験するとともに、洞海湾の歴史や環境、生物などを総合的に学ぶことで、洞海湾の水環境に関心を持ち、自然を大切にすることを育んでいます。



### 4. 少年自然の家等における野外教育の推進

担当局課[子ども家庭局青少年課]

少年自然の家(もじ、かぐめよし)や玄海青年の家等の青少年教育施設では、森や山など自然の中での宿泊生活や野外活動を通じて、規律、協同、友愛、奉仕の精神を養い、自然に親しみながら、心身ともにたくましい少年の育成を目指しています。

今後もこれらの施設における野外教育の推進に努めます。

### 5. 農業体験を通じた食農教育の推進

担当局課[産業経済局農林課]

米や野菜づくり等の農業体験や里山等を遊びや学びの場として活用して、生きることの最も基本的な要素である「食」と、それを支える「農(農業)」について学び体験する取り組みを推進します。

現在、市では、希望する小学校へ職員を派遣し、児童・先生を対象に食や農業をテーマとした出前授業や「わくわく農業体験事業」による体験活動を実施しています。

## 方向性2 自然環境に精通した人材の育成

### 1. 自然環境サポーター育成事業

担当局課[環境局環境科学研究所]

本戦略の推進に当たっては、市民やNPOの協力は欠かせません。

そこで、自然環境に関連した講座やフィールドワークを通じて、自然環境に対する正しい知識や自然との上手なつきあい方などの習得を目指した市民応援団「自然環境サポーター」を育成することで、戦略の円滑な推進を目指して、平成17年度から養成講座を実施し、平成21年度までの5年間(平成21年度)に195名のサポーターが誕生しました。また、その中から平成24年10月にオープンした響灘ジオトープを拠点に活動する「響灘ジオトープボランティア」も誕生しました。

こうして、育成された「自然環境サポーター」は、里地里山での活動、希少種の保全活動、自然観察講座の運営補助など幅広い活動を行っています。

具体的に行った講座の内容は、次のとおりです。

#### 【自然環境講義】

自然環境全般に渡る基礎知識の習得を図るための講座を開催します。講師は、それぞれの分野の専門家(NPO団体、学識経験者、行政関係者など)から選出しました。

#### 【公開セミナー】

参加者以外の多くの市民に対して公開セミナーを開催しました。

#### 【フィールドワーク】

実際の現場に出て、自然環境の現状把握、動植物の調査、自然とのふれあい体験などの体験講座を行いました。

今後は、北九州市自然環境保全ネットワークの会などで意見を伺いながら、新たな形で自然環境保全に精通した人材を育成する方法の検討を進めていきます。

## 今まで行ってきた取り組み

### ○ 自然環境講座の取り組み

#### 【自然環境講座】



「森を見る目（樹木・植物観察）」  
(H19.9.22)

#### 【公開セミナー】



「外来生物について考える」  
(H18.1.27)

#### 【フィールドワーク】



皿倉山樹木・植物観察  
(H18.10.28)



「農業を通じた自然環境の現状  
について」(H19.10.13)



「めだかシンポジウム」  
(H19.11.10)



「干潟の生き物さがしと  
海岸清掃」(H18.9.23)

### ○ エコツアーガイド養成講座の取り組み

平成20年度、第1期から第3期の自然環境サポーター養成講座修了生を対象に、「エコツアーガイド養成講座」を実施しました。

28名の受講生のうち22名が講座を修了。希望者を対象に行った試験を経て、3名の市民エコツアーガイドが誕生しました。ガイドは、平成21年度から本格実施されている「北九州市エコツアー」で活躍しています。

※「北九州市エコツアー」とは、豊かな自然だけでなく、公害克服の歴史や、国内でもいち早く持続可能な循環型社会の実現を目指してきたエコタウンなど、本市の環境資源を紹介するものです。



ガイドの心得を習得



ガイド実習



曾根干潟を調査

## 今まで行ってきた取り組み(つづき)

### ○ 自然環境サポーター ステップアップ講座

平成20年度、第1期から第3期の自然環境サポーターのレベルアップを図るため、ステップアップ講座として「里山保全活動講座」を実施しました。

34名のサポーターが受講。

小倉南区中谷地区の魅力を紹介したウォーキングマップを地元の方の話を伺いながら作成したほか、植樹会に参加するなど積極的に地元の人と交流を図りました。

また、自然ネット先進地視察(山村塾:福岡県黒木町)にも参加し、里山保全活動のあり方について学びました。



中谷マップの作成



地元で行われた  
植樹会に参加



先進地視察での  
棚田の整備